

平成28年度 京都市交通局運営方針の総括表

基本方針・重点方針	平成28年度重点取組				
	取組名	目標	計画・条例等	実績	所属等
<p>平成28年度は、市バス事業においては自立経営の堅持、地下鉄事業においては、1日5万人増客目標の前倒し達成など、経営健全化の着実な推進を図りつつ、平成28年3月策定の「はばたけ未来へ！京プラン実施計画」に掲げる、安全対策、お客様サービス及び利便性の更なる向上に向けた取組を進めます。また、京都市全体で取り組む、観光振興、京都創生、健康長寿や、文化庁の全面移転を契機とした京都の魅力向上に資するため、その一端を担う市バス・地下鉄として、交通インフラの機能向上に取り組めます。</p>	1 安全の徹底とお客様接遇向上	<p>①すべてのお客様に信頼される安全の追求 <市バス> ・重大事故0件 ・走行距離10万km当たりの有責事故件数について、過去最小値（平成27年度実績値0.288）を下回る <地下鉄> ・有責による運転事故及び輸送障害0件</p> <p>②より次元の高いお客様サービスの提供 ・「あんぜん・ていねい・にこにこ・はきはき・てきばき」の5つのキーワードに基づく21項目を実践</p>		<p>①すべてのお客様に信頼される安全の追求 <市バス事業> 市バスの事故件数について、重大事故は発生せず、走行距離10万km当たりの有責事故件数についても、過去最小値である平成27年度実績を下回ることができた。（H27 0.288件→H28 0.266件） ・市バス車両のヘッドライトのLED化を実施 ・全運転士に対する事故防止重点研修の充実 ・事故防止重点強化策を実施 ・委託先と連携した事故防止の取組を実施</p> <p><地下鉄事業> 当局の責任によって生じる運転事故は発生しなかったが、輸送障害が2件発生した ・駅出入口に止水板を設置し浸水対策を強化（二条城前駅など6駅11箇所） ・烏丸線ホーム端への注意喚起ラインを設置（可動式ホーム柵未設置の12駅） ・乗務時における基本動作の徹底を図るため、乗務区長などによる添乗指導を実施</p> <p>②より次元の高いお客様サービスの提供 <両事業共通> お客様サービス推進員等で構成する「お客様サービス向上会議」を立ち上げ、「お客様サービス向上サポート会議」からの「最終報告書」で示された5つのキーワードに基づく21項目の浸透・実践に向けて取組を推進 ・市バス、地下鉄乗務員向けの「お客様接遇マニュアル」の改訂や、市バスや地下鉄に実際に乗車して乗務員や駅関係職員の接遇状況を評価する「職員モニター制度」の見直し作業を実施</p>	<p>企画総務部研修所 自動車部各課 高速鉄道部各課</p>
	2 お客様サービスの拡充	<p>①ICカードの普及促進 ②スマートフォン対応ホームページの開設 ③北大路バスターミナルのリニューアル ④市バス均一運賃区間の拡大 ⑤無人改札口へのIC対応機能付きインターホンの設置 ⑥地下鉄案内サインの充実 ⑦地下鉄駅トイレのリニューアル ⑧京都駅へのエレベーターの増設 ⑨地下鉄車両車内灯及び駅照明のLED化の推進 ⑩地下鉄車内案内表示装置の4箇国語対応の推進（整備着手）</p>	<p>京都市高速鉄道事業経営健全化計画 京都市交通局市バス・地下鉄中期経営方針</p>	<p><両事業共通> ①ICカードの普及促進 ・平成29年4月からのIC定期券の導入およびICカードによる乗継割引サービスの開始に向けた運用試験等の実施 ・全ての改集札機のICカード対応の完了 ・地下鉄全駅においてICチャージ機能及び4箇国語表示機能付き券売機、精算機を導入 ・ICカードの普及促進に向けて市バス・地下鉄車内へのポスターやステッカーの掲出や、デジタルサイネージやラジオ番組を活用した広報活動を展開 ②スマートフォン対応ホームページの開設 ・スマートフォン対応ホームページ「京都市バス・地下鉄ガイド」を開設（4箇国語に対応）</p> <p><市バス事業> ③北大路バスターミナルのリニューアル ・空調設備の更新を完了 ・平成29年度の改修（オートドア改修と照明設備のLED化）に向けた設計を完了 ④市バス均一運賃区間の拡大 ・平成29年3月に上賀茂・西賀茂地域へ均一運賃区間を拡大</p> <p><地下鉄事業> ⑤無人改札口へのIC対応機能付きインターホンの設置 ・2駅（京都駅・四条駅）に設置 ⑥地下鉄案内サインの充実 ・烏丸線3駅、東西線6駅において駅構内の案内サインを刷新 ⑦地下鉄駅トイレのリニューアル ・京都駅のトイレを供用開始、五条駅のトイレの実施設計を完了 ⑧京都駅へのエレベーターの増設 ・ホーム・コンコース間にストレッチャー対応型の20人乗りの大型エレベーターの供用を開始 ⑨地下鉄車両車内灯及び駅照明のLED化の推進 ・烏丸線車両3編成の車内灯をLED照明に更新 ・十条駅及びびくいな橋駅ホーム階の照明器具をLEDに更新 ・北山駅、九条駅及び竹田駅照明器具のLED化に向けた設計を完了 ⑩地下鉄車内案内表示装置の4箇国語対応の推進 ・4箇国語（日・英・中・韓）表示に向けた車内案内表示装置の設計を完了</p>	<p>企画総務部総務課 営業推進室 自動車部各課 高速鉄道部各課</p>
	3 バス待ち環境の向上	<p>①バス停上屋の整備 ②バス接近表示器の整備加速 ③地域、事業者の協力による新たなバス待ち空間「バスの駅」の設置 ④ソーラー式バス停照明の設置</p>		<p>①バス停上屋の整備 ・市内周辺地域等においてバス停上屋を25箇所に整備 ・民間活力を導入した広告付き上屋を30箇所に整備 ②バス接近表示器の整備加速 ・インターネットを活用したバス接近表示器を80箇所に整備（電源の確保等の条件を満たすバス停（230箇所）への設置完了） ③地域、事業者の協力による新たなバス待ち空間「バスの駅」の設置 ・地域、民間の皆様のご協力によりバス停に近接する土地等を無償で提供していただくバス待ちスペース「バスの駅」を10箇所設置 ④ソーラー式バス停照明の設置 ・電源の確保が困難なバス停における夜間の視認性及び安全性の向上のため、ソーラー式バス停照明を目標を上回る103箇所に設置</p>	<p>自動車部技術課</p>

<p>平成28年度は、市バス事業においては自立経営の堅持、地下鉄事業においては、1日5万人増客目標の前倒し達成など、経営健全化の着実な推進を図りつつ、平成28年3月策定の「はばたけ未来へ！京プラン実施計画」に掲げる、安全対策、お客様サービス及び利便性の更なる向上に向けた取組を進めます。また、京都市全体で取り組む、観光振興、京都創生、健康長寿や、文化庁の全面移転を契機とした京都の魅力向上に資するため、その一端を担う市バス・地下鉄として、交通インフラの機能向上に取り組めます。</p>	<p>4 積極的なお客様増加策の推進</p>	<p>①全庁を挙げた「京都市地下鉄5万人増客推進本部」の取組の更なる推進 ②地域・企業・大学との連携による駅を拠点とした増客の取組 ③地下鉄の魅力向上とPRの促進 ④愛される市バス・地下鉄づくり ⑤市バスの路線・ダイヤの拡充と更なる利用促進</p>	<p>京都市高速鉄道事業経営健全化計画 京都市交通局市バス・地下鉄中期経営方針</p>	<p>平成28年度の地下鉄における1日あたりのお客様数は37.9万人となり、経営健全化計画で掲げた「1日5万人増客」という目標を平成30年度から2年前倒しで達成できた。また、市バスについても3年連続で1万人規模の増加となる9千6百人の増客を達成し、1日あたりのお客様数は36.3万人となった。</p> <p>①全庁を挙げた「京都市地下鉄5万人増客推進本部」の取組の更なる推進 ・地下鉄を核としたまちづくり、沿線での観光・集客イベントの開催、歩くまち京都の取組を核とした各局区による「地下鉄5万人増客アクションプログラム」を実施 ・若手職員増客チームの取組として地下鉄・市バス応援キャラクターと連携した日本酒の販売や、地下鉄PR動画の制作・配信など、地下鉄・市バスの増客に寄与する様々な取組を実施 ②地域・企業・大学との連携による駅を拠点とした増客の取組を実施 ・地域や事業者等の協力をいただき、駅出入口の案内表示を充実する「地下鉄道しるべ」事業を推進 ・動物園、植物園、水族館、青少年科学センターの4施設と連携したスタンプラリー等の取組を実施 ・地下鉄開業35周年・国立京都国際会館50周年記念祭の開催 ・大学や企業との連携・協力による「駅ナカアートプロジェクト」の開催 ・京都学園大学、平安女学院大学と相互に連携・協力し、イベントの開催や駅周辺の情報誌の発行など、公共交通の利用促進等の取組を実施 ③愛される市バス・地下鉄づくり ・小学生と保護者の方を対象とした見学会（夏休み自由研究「市バス・地下鉄のヒミツを知ろう」）を開催 ④地下鉄の魅力向上とPRの促進 ・購買客のニーズや収益性を踏まえたオリジナルグッズの販売を推進 ・「地下鉄に乗るっ」ホームページの開設 ・地下鉄・市バス応援キャラクター「太秦萌」等を活用したプロモーション動画やポスターを展開 ⑤市バスの路線・ダイヤの拡充と更なる利用促進 （平成28年3月に新ダイヤを実施） ・京都鉄道博物館が開業する梅小路公園へのアクセス強化 ・京都駅八条口駅前広場整備にあわせた路線・ダイヤの充実 ・地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充 ・西大路通の増便等、利便性と分かりやすさの向上 ・路線・ダイヤの充実を実現するための輸送力の増強 （平成29年3月に新ダイヤを実施） ・混雑緩和に向けた主要系統の運行拡充 ・通学系統の運行充実 ・早朝・夜間時間帯の運行充実 ・便利にご利用いただける路線・ダイヤ編成 ・地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充</p>	<p>営業推進室 自動車部各課 高速鉄道部各課</p>
	<p>5 駅ナカビジネスの積極的展開</p>	<p>①「コトチカ」のブランド力を活用した販売戦略 ②「コトチカ」に関する情報発信の強化 ③「コトチカ京都」の増床開業 ④「コトチカ北大路」の整備</p>		<p>①「コトチカ」のブランド力を活用した販売戦略 ・すべての店舗を「Kotochika」と位置付け、「Kotochika」のブランド力を活用した積極的な販売促進を展開 ②「コトチカ」に関する情報発信の強化 ・Kotochika公式ホームページを開設し、駅構内の全店舗の案内やイベント情報を発信 ③「Kotochika京都」の増床開業 ・京都駅南改札口から中央2改札口付近において店舗増床工事を進め、新たに5店舗を開業 ④「Kotochika北大路」開業に向けた準備 ・平成29年度の開業に向け、出店事業者の募集及び工事設計を実施</p>	<p>営業推進室</p>
	<p>6 安定した経営基盤の確立</p>	<p>①<地下鉄事業> 収支改善・安定経営に向け経営健全化計画を着実に前進 ②<市バス事業> ・「自立した経営」を堅持しつつ、路線・ダイヤの更なる充実、魅力的なバス待ち環境の創出、安全運行の推進など、お客様の利便性の一層向上。 ・市バス事業の充実を前提に、黒字の一部を活用し、地下鉄事業の経営健全化を財政面から支援する新しいスキームの検討</p>		<p>①<地下鉄事業> 平成28年度の地下鉄における1日あたりのお客様数は37.9万人となり、経営健全化計画で掲げた平成30年度「1日5万人増客」目標を2年前倒しで達成 ・経常損益は前年度から8億円収支が改善した結果、16億円の黒字となり、2年連続で経常損益の黒字を計上 ・資金不足比率は、経営健全化基準の20%を下回るが、経営健全化出資金の繰入れなしで安定的に20%を下回る見通しが立つまで、経営健全化団体を継続 ②<市バス事業> 「自立した経営」を堅持しつつ、路線・ダイヤの更なる充実、魅力的なバス待ち環境の創出、安全運行の推進など、お客様の利便性の一層向上 ・1日あたりのお客様数は3年連続で1万人規模の大幅な増加となる9千6百人増の増客を達成し36.3万人となった。 ・平成28年度決算において、一般会計からの任意補助金に頼らない「自立した経営」を堅持し、27億円の経常黒字を確保 ・平成29年度予算において、市バス事業の黒字の一部を活用し、地下鉄事業の経営健全化を財政面から支援する出資（11億9千万円）を計上</p>	<p>企画総務部財務課</p>